

つなぐ未来 つくる未来

CONTENTS

ごあいさつ	1
業績ハイライト	3
トピックス	5
東京ベイ信用金庫について	6
「安心」「安全」にお取引いただくために	22
資料編	32
開示項目一覧	52

ごあいさつ

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第95期事業の内容と決算のご報告をするにあたり、皆様からの日頃のご支援ご愛顧に対して心よりお礼申し上げます。

さて、昨年度を振り返りますと、我が国経済は、コロナ禍からの回復を模索する一年となりました。国内ではワクチン接種が進み、正常化に向けた動きが活発化してはいるものの、回復に向けた足取りは力強さを欠いたものとなりました。コロナ禍が長期化する中、感染状況・経済状況ともに予断を許さない状況が続きました。

海外では米国をはじめとする欧米諸国の経済回復に伴い、資源、原材料、労働力等の不足が急激なインフレを引き起こしました。各国の中央銀行が金融引き締めへと方向転換を図った結果、金融緩和を続ける日本との金利差は拡大し、外国為替市場では大幅な円安となりました。

足元ではロシアによるウクライナへの侵攻が国際的な懸案事項となるなど、先行き不透明感はさらに強まりました。

そんな中、昨年度の当金庫は、中期経営計画「未来」に基づき、基本方針で定めた「Face to Faceへの『原点回帰』」、「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」に取り組んでまいりました。

「Face to Faceへの『原点回帰』」では、融資渉外担当者の増員・育成を進め、地域事業者との接点増加を図りました。信用金庫の原点である訪問活動の強化を通じ、コロナ禍において各事業者が抱える経営課題の解決支援に努めました。

「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」では、外部環境が刻々と変化する中、マネーロンダリング対応、サイバーセキュリティ、BCP対応等、日々高度化・複雑化する経営課題への対応を進め、健全性の確保に努めました。

その結果、第95期決算につきましては、預金残高は前期末比158億円増加の5,914億円、貸出金残高は前期末比16億円減少の3,599億円となりました。また、コロナ禍の長期化に備え、予防的に貸倒引当金を手当した結果、金融機関の本業の収益力を示す業務純益は11億円、経常利益は12億円、当期純利益は9億円をそれぞれ計上いたしました。

なお、自己資本比率につきましては、9.23%と前期より0.23%上昇し、国内基準である4%を引き続き大幅に上回り、高い健全性を維持しております。

今年3月、東京ベイ信用金庫は「ちばSDGsパートナー」に登録されました。SDGs宣言で掲げた「一緒に考えて行動する」にふさわしい金庫となるべく、お客様の声にさらに耳を傾け、お客様本位の業務運営に徹し、地域の「パートナー」としての使命を果たすことで、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年6月

理事長 酒井正平



令和3年度業績ハイライト

中期経営計画「未来」の第1年度である令和3年度は、2つの基本方針を掲げて活動してまいりました。

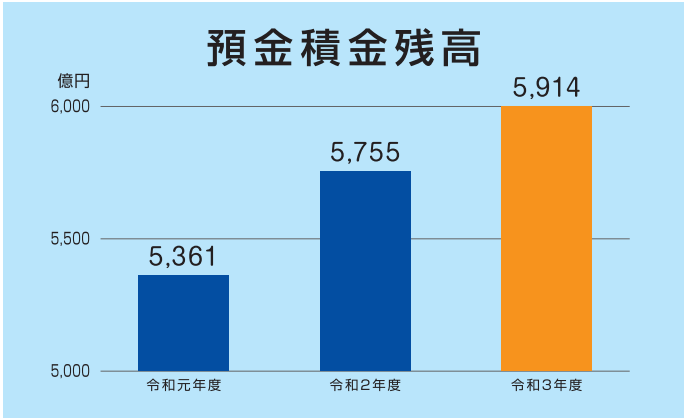
基本方針Ⅰ「Face to Faceへの『原点回帰』」では、コロナ禍に配慮しつつお客様との接点を確保しながら中小企業や事業者への資金繰り支援や経営改善に全力で取り組みました。

基本方針Ⅱ「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」では、お客様本位の業務運営に徹し、業務の健全性確保に努めました。

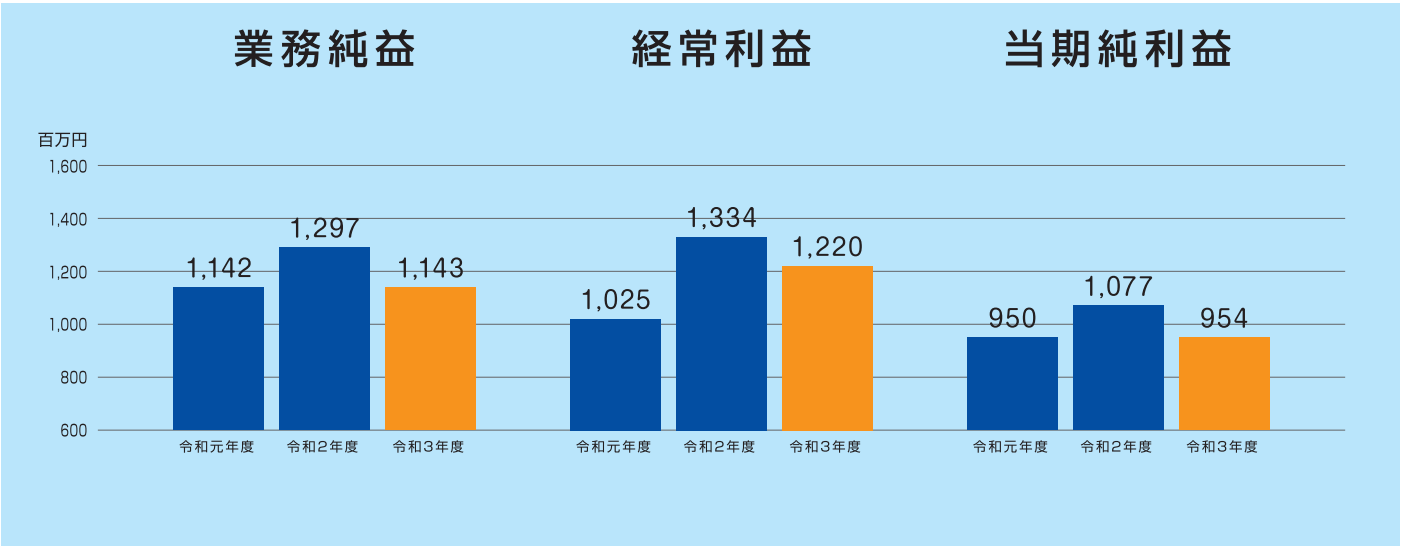
主要な経営指標3か年推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
預金積金残高	536,131	575,546	591,425
貸出金残高	329,932	361,611	359,929
有価証券残高	36,094	46,750	56,982
純資産額	25,082	25,974	26,157
総資産額（注）	580,771	646,089	675,180
経常収益	7,754	7,657	7,366
業務純益	1,142	1,297	1,143
経常利益	1,025	1,334	1,220
当期純利益	950	1,077	954
単体自己資本比率	8.69%	9.00%	9.23%

（注）残高・計数は期末日現在のものであり、総資産額には債務保証見返は含んでおりません。



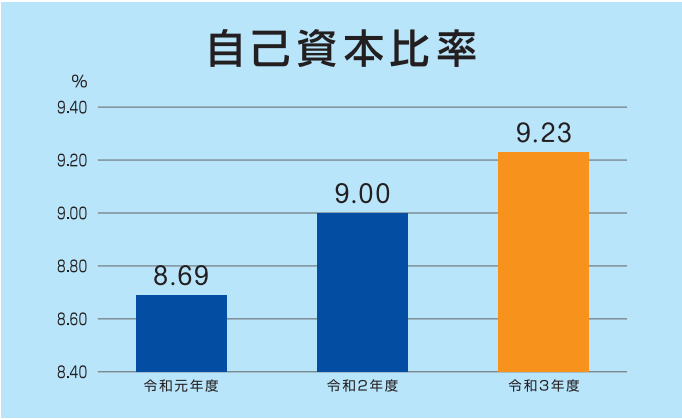
預金積金残高は、地域のお客様や地方公共団体からの預金を中心に順調に増加し、前期比158億円増加の5,914億円となりました。貸出金残高は、事業を営むお客様の資金ニーズにきめ細やかに対応した結果、前期比16億円減少の3,599億円となりました。預金に占める貸出金の割合を示す預貸率は、60.85%となりました。



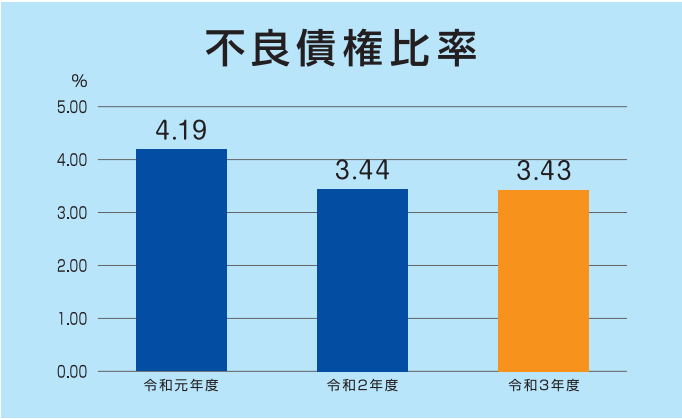
金融機関の主要な活動による利益である業務純益は、コロナ禍における一般貸倒引当金の予防的な積み増し等により、前期比154百万円減少の1,143百万円となりました。

業務純益の減少等により、経常利益は、前期比114百万円減少の1,220百万円、当期純利益は、前期比123百万円減少の954百万円となりました。

今後も預金積金・貸出金を中心とした金融サービスの提供に徹し、地域のお客様に愛される信用金庫を目指してまいります。



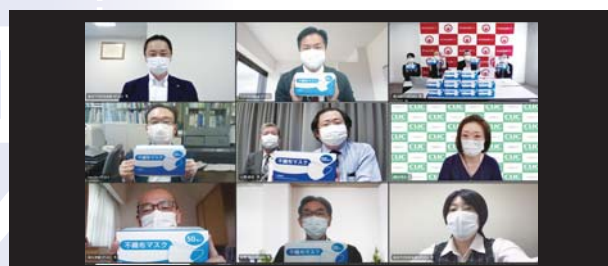
自己資本比率は、金融機関の健全性を示す重要な指標の一つです。令和3年度末における自己資比率は、前期比0.23%上昇し9.23%となりました。国内基準である4%を大きく上回っており、お客様に安心してお取引いただける経営体力を保持しております。今後も自己資本の充実を進め、健全性をさらに高めてまいります。



不良債権比率は、前期比0.01%低下し3.43%となりました。外部機関と連携しながら、お客様が抱える課題の解決支援に積極的に取り組み、不良債権の発生防止と早期解消に取り組んでまいります。



令和4年度新入職員（令和4年4月1日、28名）



大学コンソーシアム市川に参画の5大学へ不織布マスクを寄贈しました。（令和3年9月27日）



野田市立二川中学校で職業講演会を実施し、2年生24名が参加しました。（令和3年9月28日）



千葉県市川市川高等学校で金融キャリア教育を実施し、1年生319名が参加しました。（令和3年10月14日）



城東営業部、八幡支店、柏支店で防犯訓練を行いました。（令和3年12月3日、7日、14日）



大学コンソーシアム市川「金融キャリア教育に係る動画コンテンツ」を撮影・配信しました。（令和3年11月～12月）



千葉商科大学で「サービス企業セミナー」をWEB実施し、学生180名が参加しました。（令和3年12月16日）



東海大学付属浦安高等学校中等部で「金融・防犯・防災教育講義」を実施し、学生153名が参加しました。（令和4年3月7日）



総合優績店舗5店舗、優績営業課3店舗、成績優秀者15名が表彰されました。令和3年度業績評価表彰式（令和4年6月15日）



東京ベイ信用金庫について

組織図	7
役員	7
東京ベイ信用金庫のあゆみ	8
店舗のご案内	9
さまざまなニーズにお応えするために	11
SDG s 宣言	15
東京ベイ信用金庫と地域社会	16
中小企業の経営の改善のための取組の状況	17
各種手数料のご案内	19